

\*\*\*\*\*

「海の生き物を守る会」メールマガジン No.25

2008. 10. 1 (水)



Association for Protection of Marine Communities (AMCo)

Homepage : <http://www7b.biglobe.ne.jp/~hiromuk/index.html>

\*\*\*\*\*

**「今月の海の生き物」 スガモ *Phyllospadix iwatensis***

関東以北の沿岸の岩礁地に生育するアマモ科スガモ属の海草。他の属の海草が内湾などの砂泥地に根を下ろしているのに対して、スガモ属の海草は、波の荒い岩の上に密で丈夫な根毛で付着し、生育する点が特徴的である。アマモ科の他の海草が雌雄同株であるのに比して、スガモは雌雄異株である点も違いが大きい。冬期に花を咲かせ、晩春に碇型をし、楕状の剛毛列をもった種子を実らせる。種子は石灰藻などに絡まり固定した後、発芽する。



葉は細長く、硬い。葉の生長は他の海草に比べてゆっくりで、寿命も長い。写真は干潮時に撮影したもので、雄の花穂が点々と見えている。

北海道厚岸湾にて  
向井 宏 撮影

\*\*\*\*\*

目次 「今月の海の生き物」スガモ

1. 海の生き物とその生息環境に関するニュース
2. 当会の活動予定
3. 海の生き物に関する運動・行事・他の団体の情報
4. 事務局便り
5. 編集後記
6. 「うみひろも」と「海の生き物を守る会」について

\*\*\*\*\*

## 1. 海の生き物とその生息環境に関するニュース

### 【近畿】

#### ●アカウミガメの子ども30匹を救出

三重県鈴鹿市の千代崎海岸で、30匹ほどのアカウミガメの子どもがゴミに絡まって動けなくなっているのを、散歩していた近くの住民が見つかり、鳥羽水族館に連絡して助言を受けたうえで、集まった子どもたちが海に放流した。砂浜に産み付けられたアカウミガメの卵がふ化し、30m離れた波打ち際に向かう途中、ごみに引っ掛かるとみられている。付近のお年寄りによると「千代崎海岸では昭和30年代までウミガメが上陸して産卵していたが、近年は砂浜がやせて見られなくなった」という。ここでも砂浜の消失・減少が続いている。津市周辺で調査している三重大学の学生団体「かめっぷり」によると、鈴鹿市の海岸ではウミガメの産卵・ふ化は今シーズン初めて確認されたという。

#### ●串本町のウミガメ産卵・ふ化が史上2番目

ウミガメの保護活動をしている「串本海亀を守る会」（中尾勇会長）が今シーズンの串本町におけるアカウミガメの産卵・ふ化状況をまとめた。産卵数は3065個、ふ化数は2065頭で、記録を取り始めた1988年以来、2番目の多さだった。

守る会のまとめによると、今シーズンは5月19日に橋杭海水浴場で1頭が上陸、産卵したのをはじめ、8月11日までに橋杭海岸と上浦海岸で計38頭の上陸があった。そのうち産卵した雌ガメは27頭であった。これは91年の産卵雌数36頭、産卵数3932個、ふ化数2618頭に次いで多かった。しかも孵化率は80~90%に達するものが多かったのも特筆される。中尾会長は「今シーズンは気温が高かったことや、台風が来なかったので海岸のふ化場が流されるなどの被害がなかったのが大きい」と話した。

「串本海亀を守る会」では、地元の子どもたちといっしょにふ化したウミガメを放流する運動を行っている。今年の放流は8月10日から9月28日まで20回行った。

## 【中国】

### ●祝島で映画を作る

原子力発電所の建設計画がある山口県上関町長島田ノ浦の対岸の祝島で、島の人たちが海と生きる様子を映画に撮ろうと、瀬瀬（はなぶさ）あや監督の映画『祝（ほうり）の島』の撮影が始まっている。詳しくは、瀬瀬あや監督のブログ <http://holynoshima.blog60.fc2.com/> を参照のこと。

映画「六ヶ所村ラブソディー」の鎌仲ひとみ監督の映画も長島や祝島で撮影に入っている。ここのところ緊迫の度を加えている長島・祝島で、映画人たちも長島の自然を残したいと撮影が急ピッチのようである。

### ●落書き規制の砂丘条例で県議会が紛糾

砂丘に落書きが増えていることについて、落書きを条例で規制しようという鳥取県の「美しい鳥取砂丘を守り育てる条例案」が県議会でも審議が始まった。この条例の中で落書きに対して罰金（30万円）を課することの是非をめぐって論議が沸騰した。罰金による規制は行き過ぎだと指摘する議員に対し、平井伸治知事は「砂丘保全の崇高な取り組みが目的。愉快犯的に落書きが増えており、抑止力を持たせる意味がある」と条例の意義を強調した。議員の間では罰金に慎重意見が強く、条例修正の動きがある。

自民党の前田議員が「建造物の落書きとは違う。鳥取砂丘は条例違反で摘発される恐ろしい所との印象を与えかねない」と砂丘観光へのマイナスを指摘、モラル向上運動の盛り上げを優先するべきと主張した。これに対し、平井知事は「（落書きは）永続性のあるものではないが、鳥取砂丘は鳥取県の顔。美しい砂丘を引き継いでいくことが大切」とした上で、「自然公園法では禁止行為が明確でない。落書きは禁止行為だと言うだけでは、実効性のある規制にならない」と主張した。

自然公園法には広告物の掲示規制はあるが、落書きを禁止行為とする明確な定めはない。規制区域に広告物などを掲示した場合は罰金50万円。ごみの投棄など「利用者に対する迷惑行為」に対しては罰金30万円が設定されている。県の砂丘条例案は同法の「迷惑行為」に準じて罰金額を設定したもので、落書きの定義を「特定の図形や文字の面積が十平方メートルを超えるもの」としている。

## 【四国】

### ●世界最大級のサンゴ観察ならず

徳島県の牟岐大島の入り江にある世界最大級ともいわれるハマサンゴを観察するツアーが牟岐、河内両小の児童と保護者41人によって計画された。しかし、当日は悪天候のため船がサンゴに近寄ることができなかった。波が高かったため観察を断念し、代わりに島の栈橋近くで熱帯魚を観察した。ツアーは、ハマサンゴを使って町おこしを目指す「牟岐千

年サンゴの発掘隊」の主催。ハマサンゴの観察を観光資源に育てようと計画しており、今回は地元の子ども対象に初めて開いた。本年度中に、地元住民対象に数回開く予定。牟岐大島のハマサンゴは高さ約9m、周囲約30mで、年齢は約1000年と推定されている。

## 【沖縄】

### ●米軍訓練でサンゴ損傷か 名護市辺野古沖

9月24日沖縄県名護市辺野古の海岸で、リーフ内のサンゴがかなりの程度壊されているのが市民団体のメンバーらによって確認された。海上で環境アセス調査の監視活動を行っていて見つけたもので、海中写真撮影をした。この日の午前8時半ごろから9時半ころまで、米軍の水陸両用車の移動訓練が行われていたことから、メンバーらは「米軍の訓練でサンゴが破壊された」と発表した。

名護市基地対策室によると、米軍は沖縄防衛局を通して通常行っている訓練の通知を行っているが、この日の訓練についてはまったく通知されていなかったという。しかし、同基地対策室の職員が午前8時半ごろ、浜から海上に移動する水陸両用車11台と沖合に停泊する揚陸艦を確認した。揚陸艦は午前10時45分ごろ水陸両用車を収容し海域を離れたという。

## 2. 当会の活動予定

### ● 砂浜海岸生物調査のお願い

海の生き物を守る会・OWS

海の生き物を守る会では、セブン-イレブンみどりの基金の後援で、NPO法人OWSと共同で今年から全国の砂浜海岸生物調査を実施しています。日本の砂浜を生き物のために取り戻そうと計画された調査です。調査は誰にでもできる方法で計画されていますので、少しでも多くの方が、多くの海岸でこの調査に参加していただけるようお願いいたします。

ご協力いただける方は、事務局までお申し出ください。方法と調査報告用紙をお送りいたします。なお、方法と調査用紙は希望者にはメールでもお送りします。当会のホームページ <http://www7b.biglobe.ne.jp/~hiromuk/index.html> にも掲載しています。今月からは、NPO法人「海守」でもこの砂浜海岸生物調査に参加を呼びかけています。

## 3. 海の生き物に関する運動・行事・他の団体の情報

### 【北海道】

#### ●襟裳岬「風の館」で MARE します

2008年10月4日(土)13時より襟裳岬「風の館」にてMAREをします。地元の小学生を中心に、もちろん町外からの参加も大歓迎、襟裳岬にもいるアザラシをテーマにしたMAREをしますのでたくさんの方の参加をお待ちしています。また、前日の10月3日18時より、「MAREって何?」と思われる大人の方のためのMARE体験会も開催します。こちらにも参加者募集中です。詳しいことは、[mare@marinelearning.org](mailto:mare@marinelearning.org) までお問い合わせください。

主催：NPO海の自然史研究所

### 【関東】

#### ●OWSパラオ・サンゴ礁エコツアー開催

国際サンゴ礁年2008 特別企画

「OWSパラオ・サンゴ礁エコツアー」開催

ダイバーには不動の人気を誇るパラオ。今回のエコツアーは、パラオ在住の倉田洋二 OWS 副会長と OWS ネイチャーガイドがパラオの大自然の魅力を余すことなくガイドするスペシャルツアーです。無人島で過ごす2日間は、非日常的で贅沢な時間を過ごすことができる特別なプログラム。リピーターでも新たなパラオの発見が出来る内容です。

開催日：11月27日～30日 4日間【現地集合／現地解散】

※ツアー日程に合わせて成田を発着する場合、11月26日成田発、12月1日成田到着  
参加費：98,000円(現地宿泊費、キャンプ費用、スケジュールに記載されたプログラム参加費・食事・移動費用を含む)

※現地への渡航費は各自手配となります。手配先が不明の場合は事務局まで。  
宿泊施設：コロール:VIPホテル(シングルルームをご希望の場合は追加料金必要)

応募締め切り：10月26日 ※お申込みはお早めに！

最少催行：6名

お問合せ：OWS事務局まで。(Tel:03-5960-3545, E-mail:info@ows-npo.org)

※詳しくは⇒<http://www.ows-npo.org/activity/eco-tour/palau-ecotour.html>

#### ●OWSネイチャーガイドトレーニングコース開催 参加者募集中

このコースは、プロのネイチャーガイドとして、自然観察や自然体験プログラム等を立案・実施するために必要な能力を開発するコースです。フィールドでの研修を中心とした実践的なプログラムで、職業としてのネイチャーガイドを目指す意欲ある方の参加をお待ちしています。

開催日：10月31日（金）～11月3日（月・祝）コアコース 4日間

※3週間のインターンコースは常時開始可能です。

開催場所：OWS 講習室・三浦半島（コアコース実施予定地）

参加費：157,500円（4日間コアコース+3週間インターンコースの全受講費、教材費、  
傷害保険、税含む）【その他費用】旅費、宿泊費、食費等の実費、OWS 登録料

定員：6名（最少催行人数 2名）

※詳しくはこちらをご覧ください⇒<http://www.ows-npo.org/activity/ntc/outline.html>

## ●第5回「OWS海のセミナー」開催予告

今年のテーマは、『サンゴ礁保全と海洋保護区』。国際サンゴ礁年を締めくくり、来るべき2010年の国際生物多様性年に向け、ゲストスピーカー3名をお招きして開催します。

開催日：2008年11月29日（土）14時00分～17時40分（予定）

場 所：国立科学博物館 新宿分館 研修研究館 4階大会議室

テーマ：「サンゴ礁保全と海洋保護区 ～生物多様性保全を考える～」

講演者：西平守孝（名桜大学特任教授）

キャサリン・ミュージック（サンゴ礁研究者）

向井 宏（海の生き物を守る会代表・北海道大学名誉教授）

## ●「国際海洋環境シンポジウム2008」

### — 海から魚が消える？ 私たちが今できること —

日 時：2008年10月17日（金）10:00～

会 場：国際連合大学 ウ・タント国際会議場（東京都渋谷区）

参加費：無料（事前申込みが必要。オンライン申込み登録は下記ウェブサイトから。）

◆シンポジウムの講師はこちらの方々◆

ダニエル・ポーリー教授（Dr. Daniel Pauly）

ブリティッシュコロンビア大学（カナダ）漁業センター所長、Sea Around Us（私たちを取り巻く海）プロジェクト主任調査官。長年にわたり熱帯、特に東南アジアの漁業を研究。1994年からブリティッシュコロンビア大学の漁業センターで調査を続け、2003年所長に就任。漁業管理およびエコシステムモデリングについて多数の著作があり、その中で紹介されたコンセプト・手法・ソフトウェアは世界中で利用されている。主な例は、「エコパス・モデリング・アプローチ」<http://www.ecopath.org/>、インターネットベースの魚類の百科事典である「フィッシュ・ベース」<http://www.fishbase.org/>、および世界的な漁業傾向のマッピング <http://www.seaaroundus.org/> など。受賞多数。

小松 正之教授（こまつ まさゆき）

政策研究大学院大学教授（海洋政策論）。経営学修士（MBA）（米エール大）、農学博士（東大）。1977年、農林水産省に入省し、水産庁にて海外漁業協力、漁業交渉などを担

当。FAO（国連食料農業機関）水産委員会議長（2001～2003年）、IWC（国際捕鯨委員会）日本政府代表代理（1991～2004年）などを歴任後、農林水産省退職。2008年より現職。

『これから食えなくなる魚』（幻冬舎新書、2007年）など著書多数。

その他、魅力的なスピーカーの紹介は専用ウェブサイトからご覧ください。

[http://www.greenpeace.or.jp/campaign/oceans/susea/speaker\\_html?whalelove](http://www.greenpeace.or.jp/campaign/oceans/susea/speaker_html?whalelove)

★オンライン参加登録はこちらから：

[http://www.greenpeace.or.jp/campaign/oceans/susea/registration\\_html?sup](http://www.greenpeace.or.jp/campaign/oceans/susea/registration_html?sup)

★お問い合わせ：

「国際海洋環境シンポジウム 2008 事務局」（株式会社サイマル・インターナショナル内）

電話：03-3524-3132 メール：[marine@simul.co.jp](mailto:marine@simul.co.jp)

※詳しくはこちら⇒<http://www.greenpeace.or.jp/susea?whalelove>

## ●シンポジウム「アサリ復活に向けた研究開発の最前線」

日 時：2008年10月6日（月）9:00～17:00

会 場：南青山会館（東京都港区南青山5-7-10）

主 催：独立行政法人水産総合研究センター

1. アサリはどこに集まるか
  - ・稚貝の定着から見た海底の流動特性の解析（桑原久実/水産工学研究所）ほか3名
2. どうすればアサリが集まるか
  - ・被覆網による稚貝の定着促進とその課題（鳥羽光晴/千葉県水産総合研究センター）  
ほか3名
3. アサリをどうやって育てるか
  - ・人工種苗の安定大量生産技術（兼松正衛/瀬戸内海区水産研究所）ほか4名
4. 総合討論
  - ・パネラー：日向野純也（養殖研究所） 浜口昌己（瀬戸内海区水産研究所）  
桑原久実（水産工学研究所） 鳥羽光晴（千葉県水産総合研究センター）  
ほか

## ●第1回 国際アサリシンポジウム－資源増殖と管理－

アサリはかつてアジアで世界の生産量の80%を占める生物であったが、現在では世界各地にその生産地は広まり、イタリアのシシリー島でも普通に販売されているなどいまや世界的な水産物となりつつある。しかし、一方で本来の生息地では、日本では1980年代半ば、大韓民国では1992年を境に生産量は激減している。現在、日本ではアサリ資源全国協議会を作り、アサリ資源の回復を目指して様々な試みを行っているが、例えば、アサリ種苗の安価な生産等は国内より海外のほうが技術は進んでいる。そのため、今こそ世界のアサリ研究者が集い、情報交換することは我が国のアサリ資源復活のためにも有用と考える。そ

ここで、世界水産学会議に集う諸外国のアサリ研究者に加え、複数のキーパーソンを海外から招聘し、国内の研究者とともに、世界初のアサリシンポジウムを企画する。これにより各国の情報を交換し、アサリの問題点並びに今後の方策等を世界規模で論議し、国内のアサリ資源の問題点を抽出すると共に、世界商品としてのアサリの今後について模索する。

日 時：2008年10月25-26日

開催場所：(独)水産総合研究センター・中央水産研究所

参加費：無料(予定)

使用言語：英語

主催者：(独)水産総合研究センター

後援：水産海洋学会、日本ベントス学会

シンポジウムの内容および日程：

●10月25日 シンポジウム(9:30-18:00)・懇親会(18:10-)

Opening remarks etc

**Keynote lecture-1** 10:00-12:00 (Chairperson: Choi Kwang-Sik)

Mitsuharu Toba (Japan) : Asari, past and now in Japan - motive of the establishment of National Conference on Asari Stocks

Bill Dewey (USA) : Ecology and aquaculture of manila clam in USA

12:00-14:00 Lunch and poster session

**Highlight in East Asia** 14:00-17:00 (Chairperson: Jyunya Higano)

Choi Kwang-Sik (Korea)

Satoshi Watanabe (Japan)

Alok Kalla (India)

Hajime Saito (Japan)

Report from major fishing area in Japan (Chairperson: Satoshi Watanabe)

Hokkaido

Tokyo Bay

Mikawa Bay, Ariake Sound and Seto Inland Sea

**Discussion** 17:00-18:00 (Chairperson:Satoshi Watanabe, Jyunya Higano, Hajime Saito, Choi Kwang-Sik)

18:10- Banquet

●10月26日 現地視察(参加費無料(昼食代は別)千葉県漁場他)

懇親会費：2000円程度(当日徴収)

詳しくはこちら⇒[http://cse.jircas.affrc.go.jp/swat/asari\\_symp\\_2008/default.html](http://cse.jircas.affrc.go.jp/swat/asari_symp_2008/default.html)

●市民セミナー「地球温暖化と南極の生物多様性」

南極南大洋連合 南極オキアミ保全プロジェクト主催

市民セミナー「地球温暖化と南極の生物多様性」

～生態系を支えるオキアミ保全の視点から～

多様な種が生息する南極。その多くの生命を育てているナンキョクオキアミが、地球温暖化の影響を受けつつあります。南極の生態系の保全活動をしている「南極南大洋連合」が地球温暖化と南極の生態系、オキアミの保全をテーマに、市民セミナーを開催します。

開催日：9月25日（木）18:30～21:15（開場18:15）

開催場所：文京区スカイホール

東京都文京区春日1-16-21 文京シビックセンター26階

参加費：無料

主催：南極南大洋連合 南極オキアミ保全プロジェクト

問合せ：南極南大洋連合日本スタッフ 担当：関根

メール：[okiami@krillcount.jp](mailto:okiami@krillcount.jp) 電話：080-2001-195

申込み：Eメールにて、名前、ふりがな、ご所属（任意）、参加人数、電話番号、e-mailアドレスを、上記問い合わせ先メールアドレスまでお送り下さい。

※詳しくは南極オキアミプロジェクトホームページをご覧ください

⇒<http://www.krillcount.jp/seminar08.html>

## ●「まち再発見講座～習志野の海辺・谷津干潟をさぐる」

ラムサール条約登録湿地の谷津干潟（習志野市谷津）周辺に残る海辺の痕跡などをめぐり、海辺のまちのルーツや魅力を再発見する。

主催：谷津干潟自然観察センター

日時：10月16日～3月26日（毎月1回、午後1:30～3:30）

講座では、習志野の海岸の歴史についての学習会を行った後、市内の昔と今の海岸線を踏査し、最終回で講座の成果を地図にまとめる。

- ・ 初回（10月16日）：「谷津干潟を知る」講座の主旨と進め方についてや、講座のための谷津干潟ガイドウォークなどのオリエンテーション。
- ・ 11月20日：「谷津海岸の歴史1」縄文から江戸の歴史を探る。
- ・ 12月18日：「谷津海岸の歴史2」明治から昭和三十年代の歴史を探る。
- ・ 1月15日（2009年）：「谷津海岸の歴史3」昭和四十年代から現代まで。
- ・ 2月19日：「フィールドトリップ1」船橋港から宮本、谷津公園を歩く。
- ・ 3月19日：「フィールドトリップ2」谷津公園から袖ヶ浦、幕張、茜浜を歩く。
- ・ 3月26日：「活動のまとめ」ガイドマップを作る要領で街中の海辺に関する情報や観察ポイントをポスター大の地図にまとめる。

定員：25人。全回を通じて参加できる人が対象。

参加費：8000円（全7回分）

申し込み・問い合わせは10月1日から谷津干潟自然観察センター（電話047-454-8416）。

## 【関西】

### ●アルゴノータ（関西海洋生物談話会）例会

どなたでもご来聴大歓迎です。

日 時：2008年10月5日（日）午後2時30分より

場 所：奈良女子大学理学部F棟5階・大学院演習室（当日は学内に順路の掲示をします）

発 表：稲土綾乃（奈良女子大学）

「カルエボシの生活史」

\*河井崇・大田直友（阿南高専・建設システム工学）

「浚渫土人工干潟に偶然加入したシオマネキ：大潟漁港改修事業の現状、野外底質入れ替え実験、+新ネタ」

\*大田直友・河井崇・橋本温（阿南高専・建設システム工学）

「ホソウミニナ吸虫寄生率の標高・微地形・季節による変化」

※会場へのアクセスについて：例会当日は日曜日のため、奈良女子大の門や建物入口は閉鎖されているところがあります。

詳しくはアルゴノータホームページ⇒<http://www.mus-nh.city.osaka.jp/iso/argo/>

## 【中国】

### ●緊急署名のお願い

長島の自然を守る会の高島美登里です。さる6月17日に中国電力が上関原発予定地である田ノ浦の公有水面埋立免許願書を山口県に提出しました。埋立許可願書には、国の天然記念物であるカムリウミスズメの記載が抜け落ちており、対岸の祝島の住民の死活問題を全く無視しているという、根本的欠陥があります。今後、山口県知事の判断にすべてがかかっていますが、9月の上関町議会に地元意見を諮問し、早い段階で判断をする可能性もあり、事態は急を要しています！！については、大変緊急で申し訳ありませんが、下記趣旨をご理解いただき、全国・全世界への署名依頼にご協力をお願いいたします！！電子署名も受け付けます。添付資料をご入用な方はお知らせください。添付メールだと容量が重いので、宅ファイル便で送付します。A4裏表4ページです。（A3で1枚分）

集約日：1次集約9月26日、2次集約10月15日です。

PCからのオンライン署名 ⇒ <http://www.shomei.tv/project-116.html>

携帯からのオンライン署名 ⇒ <http://www.shomei.tv/mobile/project.php?pid=116>

署名趣旨は以下のとおりです。

★上関原発予定地「田ノ浦」は世界に誇る自然の宝庫です！世界で一番小さなクジラのスマナメリが子育てをし、人類の祖先といわれるナメクジウオや珍しい貝がたくさん棲んでいます。

★国の天然記念物のカムリウミスズメが生息！ 繁殖の可能性もあります！！

★カンムリウミスズメの記載が一切ない？！

「公有水面埋立免許願書」はカンムリウミスズメの記載が一切ないなど根本的な欠陥を持っており「埋め立てありき」の企業姿勢が如実に顕れています。

★田ノ浦の埋め立ては、祝島の人々の生きる権利を奪ってしまいます！

田ノ浦の埋立は海を隔てて4キロの対岸にある祝島の「命の海」を奪い、そこに暮らす人々の生きる権利も奪います。

★私たちは山口県知事に、中国電力の埋め立て免許願書を許可しないことを強く求めます。

長島の自然を守る会 代表 高島美登里 [midori.t@crocus.ocn.ne.jp](mailto:midori.t@crocus.ocn.ne.jp)

## ●「宝石珊瑚の文化誌」

人類が地中海産宝石珊瑚（ベニサンゴ）を装飾品として利用した歴史は古く、3万年前の旧石器時代に遡る。19世紀までは、イタリアを中心とする地中海で採集されたベニサンゴが宝飾品、装飾品、医薬品として世界各地に流通していた。1832年に高知県室戸沖で宝石珊瑚が発見されると、地中海産よりも質が良いことから世界に流通するようになった。このような歴史と地理的拮据を持つ宝石珊瑚は、人と自然との関係、人と産物の移動を研究するうえ格好の研究対象である。宝石珊瑚類の資源は、長年にわたる漁獲により資源の枯渇が心配されている。そのため、2007年6月開催された第14回ワシントン条約締約国会議で宝石珊瑚の国際商取引を規制する提案（附属書IIへの掲載）が提出された。この提案はいったん第1委員会可決されたものの本会議で否決された。その後中国が自国の宝石サンゴ4種を附属書IIIに掲載を求めたため、今年7月より国際取引の規制が始まった。宝石珊瑚の保全是大きな課題であるが、資源量や成長、再生産時期等が未解明であるのはもちろんのこと分類も未確立であり、保全及び適切な利用を図るための科学的知見を集積する必要がある。

例会では、宝石珊瑚に関わる自然科学と人文科学に関する話題を報告し、今後の課題について議論する。

日 時：2008年11月22日（土）午後1時半から5時50分 その後懇親会を開催

場 所：高知大学人文学部第1会議室（高知市朝倉、JR土讃線朝倉駅）

主 催：生き物文化誌学会高知例会実行委員会

プログラム：

岩崎 望（高知大学） 「宝石珊瑚とワシントン条約」

長谷川浩（金沢大学） 「宝石サンゴの化学分析で分かること」

荻慎一郎（高知大学） 「近代日本の宝石珊瑚漁と地域」

秋道智彌（総合地球環境学研究所）「中国、チベットにおける宝石珊瑚の利用」

西江雅之（アジア・アフリカ文化財団） 「宝石珊瑚と海上の道」（仮題）

講演者によるパネルディスカッション

懇親会：午後6時15分から8時、高知大学生協「イクス」

参加お申し込みは11月14日（金）まで、以下のことを岩崎宛お知らせ下さい。

名前 連絡先（電話またはE-mail）懇親会参加：有 無 生き物文化誌学会：会員 非会員

連絡先：高知大学 総合研究センター 海洋生物研究教育施設 岩崎 望

電話：088-856-3019（研究室） 088-856-0422（事務室） E-mail：[iwasakin@cc.kochi-u.ac.jp](mailto:iwasakin@cc.kochi-u.ac.jp)

## 【沖縄】

### ●市民による海草調査 台風のために延期

沖縄ジャングサウォッチ2008<10月調査>の誘い

シーグラスウォッチ・ジャパンでは、今年も市民による海草調査「沖縄ジャングサウォッチ」を行います。これは、シュノーケルをしながら海草の生育状況を調べる活動で、2006年まで（財）日本自然保護協会（NACS-J）が行ってきた調査活動を引き継いだものです。基地建設問題に揺れる名護市東海岸は、ジュゴンの住む海。ジュゴンのえさ場である海草藻場の長期的なモニタリングを行い、市民の側から科学的な目で海草藻場の変化を記録することで、海草藻場の保全につなげて行きたいと考えています。今年は9月13日と14日に調査を予定していましたが、台風13号の接近により10月へと変更になりました。新たな日程でご参加いただける方は、末尾のお申し込みフォームにご記入の上、10月5日（日）までにメール・ファックス・郵送のいずれかでお申し込み下さい。初心者大歓迎です。ジュゴンや海草藻場保全に興味のある皆様のご参加を、心よりお待ちしております。

#### ■ 参加条件 ■

- ・シュノーケリングと、水深3m程度までの素潜りができる方。（素潜りに不安がある方はご相談下さい。）
- ・初めてご参加いただく方は、必ず18日の初心者講習を受けていただきます。
- ・参加費無料（保険料はこちらで負担）。ただしお弁当と宿泊が必要な方には実費をお願いします。

#### ■ スケジュール

##### □ 10/18（土） 名護市嘉陽の海草調査

12:30 嘉陽・松浜荘駐車場に集合、17:00 終了予定。

【内容】 砂浜からシュノーケリングで海に入り、水深1~2mの場所でラインを引きながら海草調査を行います。初めてご参加いただく方には、現地で初心者講習（海草の見分け方と調査方法のレクチャー）を行います。

##### □ 10/19（日） 名護市辺野古の海草調査

10:00 汀間漁港に集合、16:00 終了予定。

【内容】 2隻の船で汀間から辺野古の調査海域に移動し、水深1~3m程度の場所でシュノーケリングによる海草調査を行います。調査の途中、辺野古岬沖の長島または平島で昼食をとる予定です。

#### 4. 事務局便り：

- 講演での講師派遣を希望される方は、事務局へお問い合わせください。沿岸の生物やその環境についての問題、沿岸生態系の構造、保全、再生、地球環境問題、環境教育などに関する講演を行うことができます。
- 本会へのカンパをお寄せください。口座は埼玉りそな銀行指扇支店 3896180。
- 企画案などその他なんでも本会の活動に関することは、事務局あてにお寄せください。
- このメールマガジンは、毎月1日と16日の2回発行の予定です。配信を希望する方、送りたい方がありましたらアドレスをお知らせください。また、パソコンを使えない方には印刷体でもお届けします。その場合は、郵送料をご負担していただくことがあります。
- このメールマガジンは転載自由です。海の生き物に関心を持っている方に広く読んでいただくために転送をお願いします。ただし写真を別の目的で使用する場合は事前にご連絡ください。海の生き物や海の生き物を守る運動についての情報など、また各地で行われている海の生物の観察会、研修会、その他の行事に関する情報もお寄せください。「うみひろも」のバックナンバーをごらんになりたい方は事務局までご一報ください。
- 本会は自然観察会や講演会を各地で実施しています。各地で開催を希望される方、開催をお手伝いできる方は、ご一報ください。また、各地の団体との共催も行います。ごいっしょに講演会や観察会をしたいと思われる団体からも提案をお受けします。

#### 5. 編集後記

本会の事務局が本日より下記に移転しました。電話も変更になっていますので、お間違いないようにお願いします。

〒606-8244 京都府京都市左京区北白川東平井町 23-1 グリーンヒル北白川 23 号室

電話&FAX：075-703-7205

これからも「海の生き物を守る会」の活動にご理解とご協力をお願いいたします。(宏)

#### 6. 「うみひろも」と「海の生き物を守る会」について

この「うみひろも」は「海の生き物を守る会」のメールマガジンです。会員および関心を持っていただけると思われる方にお送りしています。配信が迷惑と思われる方は事務局までご連絡ください。「海の生き物を守る会」の趣旨および組織の概要は会のホームページ <http://www.7b.biglobe.ne.jp/~hiromuk/index.html> をごらんください。

### 会員募集中！

会員は本会の趣旨に賛同できる個人・団体とします。会費は個人 2,000 円／年、団体 20,000 円／年。匿名による参加も可能です。会員は、当会の名前を使って各地で海の生物とその環境を保護・保全する活動を行うことができます。活動は当会の発行するメールマガジンなどを通して

広く通知されます。会員は本会の名前で各地の活動のための助成金申請をすることができます。入会希望の方は、事務局 [hiromuk@mtf.biglobe.ne.jp](mailto:hiromuk@mtf.biglobe.ne.jp)（向井）まで、氏名、住所、メールアドレスをお知らせください。

## 事務局員も募集中！

事務局を手伝っていただける人を探しています。パソコンが使える環境にあれば近くにいなくてもお手伝いいただけます。ただし、無収入ですので海の生き物の保全・保護に関心とボランティア精神のある方。

メールマガジン『うみひろも』第25号 2008年10月1日発行  
発行&編集人「海の生き物を守る会」代表 向井 宏  
〒606-8244 京都市左京区北白川東平井町23-1 グリーンヒル北白川23  
TEL&FAX:075-703-7205; 090-8563-1501  
メールアドレス：[hiromuk@mtf.biglobe.ne.jp](mailto:hiromuk@mtf.biglobe.ne.jp)  
ホームページ URL：<http://www7b.biglobe.ne.jp/~hiromuk/index.html>  
銀行口座：埼玉りそな銀行指扇支店 3 8 9 6 1 8 0

